地域コーディネーターの役割

平成27年11月10日　周南総合支援学校　前﨑勝則

はじめに

地域Coの役割

医師でもなく、臨床心理士でもない地域Coの役割
保護者の子育て支援と子どもの観察が中心になる。
「お母さん資料はもらってるんだけど今一番気になっていることはなんですか？」
「具体的にはどういうこと？」「どんな時に起きる？」などと質問しながら進めていく。
子どもに対しては、簡単な指示・質問が理解できるか？
意図した絵が描けているか？顔や手足の表現の仕方、周囲の描き方等
積み木の積み方等遊びの質からから見えてくる発達段階について観察をする。
保護者の子どもに対する声かけや指示の仕方などの観察を通して、保護者との関係性も観察する。
時には子どもに対して具体的な声かけや支援の仕方についても実際に見せて説明をする。

保護者から出てくる「今困っている行動」

保護者の困り感に寄り添う形で聞き出す

「具体的にはどういうこと？」「どんな時に起きるの？」「どんな時に起きやすい？」

「困った行動…」具体的には

思い通りにならない

言うことをきかない。片付けをしない。遊びを中断できない。
テレビを消さない。ゲームをやめない。
スーパーに行くと走り回って落ち着かない。「ここで待っててと言っても待てない。」
朝なかなか支度ができない。（朝ご飯をたべない、朝の用意をしない）
手悪さ（口に手を持って行く、爪を噛む、性器いじり等、指吸い口の形が悪くなる）

日常生活の悩み

排泄の自立ができない。（排尿はできるが、排便が…）
偏食がきびしい。

発達の遅れ？何かある？

わがまま～自分の思い通りにならないと泣き出す。じらがひどい
友だちと遊べない。友だちが少ない。一人遊びが多い。
道を歩いていても手を離す。飛び出す。
兄弟と比べて～
初めての場所に慣れない。
落ち着きがない。
兄弟げんかをする（小さい子に手を出す、いじめる）
他の子どもと比べて文字を覚えていない。（他の子はどのくらいできているのか？）
うちの子はどの程度のところにいるのか？

自分の子育てに悩んでいる

子どもを強く叱ってしまう～
母子家庭ということで問題があるのか
生活するのに精一杯で子どものことまで手がまわらない。（「これ以上何を…？」）

教育相談で大事にしていること

「お互いつらいんだよね。よく頑張っているんだよね。」

子どもたちの困った行動には必ずわけがある。
「How?」ではなく、「What?」「Why？」の立場で考えてみよう。

縦軸と横軸で考えると見えてくることがある。
時系列と内容、「人、もの、場所」等

「どうして？」という問いかけが大事

子どもたちの困った行動には必ずわけがある。彼自身の行動に隠されている本当の思いに心を向けることは少ない。
「どうしてそういうことをするんだろう？」「いつもしているように思うけど、本当にいつもなのか？」そういう目で見ているとやっていない時もある。やっていない時はどういう時なのか？
そういう考え方をしていくと一人ひとりの問題として捉えることができるのではないか。
「24時間悪い子はいない」

子どもとの信頼関係こそ大事

理屈ではなくそこから始まる。そこにしか、方法はない。
何に苦しんでいるのか？
本当はどうしたいと思っているのか？
心から悪い子はいない。24時間悪いことをしているわけではない。

客観的な行動と本音の思いの違い

本当の気持ちに気づいてほしい。
「ちゃんとしたい」「こんな自分じゃない」という思いがある。
「どうしてそんなことをしたの？」→「どうしてか分からないからやっている」
「わかっていたらやっていない」
身体の中にいるごそごそ虫やいらいら虫と闘っている気持ち。

本当は“ できるようになりたい“ 分かりたい”

やる気のない子ども”の烙印は押されたくない。
「また、ごそごそしている」ではなく、惜しかったねさっきまでできていたのに今ごそごそしたね」「できていない」ではなく「できている」時を見つけて評価する。
“ 子どもたちはやる気のない子ども”の烙印は押されたくないと思っている。
子どもによっては「できない」「だめな自分」の連続になっている。
それが高じていくと「どうせ…」という気持ちが大きくなってくる。

普通を評価しよう

「ほめるところが見つからない」ではなくて、「それでいいよ」「その調子だよ」「○○ができているよ」子どもの側から自己肯定感が育つようにほめてみよう。
「お利口！」「上手！」「さすが！」上から目線でほめる言葉はいらない！
「昨日は『さすが！』って言ってくれたのに今日は言ってくれない。」
「もっと頑張ったらもっと褒めてくれるんだ！」親の期待に必死になりすぎてプレッシャーになってしまい、つぶれることがある。
「○○したね」「○○ができたね」自分が気づくような評価の仕方が大切
「ほめるところが見つからない」ではなくて、「それでいいよ」「その調子だよ」「○○ができているよ」子どもの側から自己肯定感が育つようにほめていく。
「お利口、賢い、かっこいい。さすが」と言った上から目線でほめるのではなくて自分が気づくようなほめ方が大切。

注意して聞いてくれたらそこを評価しよう

「よく聞いてくれたね。ありがとう。お母さんは助かったよ」
どうしたら評価されるかを明確に示そう。

変化しようと思う気持ちを評価する

直そうとする時をとらえて評価することが大切。
離席を注意するのではなく、戻ろうとした時に評価する

「いてもいい自分」をしっかり受け止める

「大人を見ている自分」をしっかり受け止めてもらえる経験をたくさんさせる。
「大人はいつもあなたのことを見ているよ」をしっかり出す。

「役に立っている自分」「主人公の自分」をしっかり評価する

家での仕事（手伝いではない）の場面をしっかり用意して評価する。
夕食のランチョンマット、箸置き、簡単な調理、お風呂の掃除等
「役に立っている自分」の場面を社会的に作っていく

相手の気持ちをしっかり伝える

身近な大人が、「ありがとう」「助かったよ」「嬉しかったよ」
「それは嫌な気持ちになったからやめて」
「一度でやめてくれて嬉しいよ」
言葉に出して気持ちを伝える

問題を考える時は「Ｈｏｗ？」でなく「Ｗｈｙ？」 「Ｗｈａｔ？」 で

「どうしたらその行動が止まるのか？」方法論で考えるのではなく、
「どうしてそうなるのか？」「何が原因なのか？」
「何が彼をそこまで追い込んでしまっているのか？」

抽象語は少なく具体的に

「あっち・こっち」「たくさん」「あと少し」「だいたい」ちゃんと」
目的や終点、量や回数が不明確で正解がいくるもあるようなことばは避ける。
「今から話をします。聞いてください」
「今からやることを言います。全部で４つあります。1番は～です。2番は～です。」
だらだら話すのではなく、辞書にあるような言葉で伝える。

安易な約束と質問調子の追い込みを避ける

「今、何の時間ですか！」
「さっき言ったでしょ－ ！」「お母さんに何ていわれましたか？」という質問調。
「ちゃんとするんですよ。いいですね。約束よ。」
「さっき言ったでしょ」「約束したでしょ」

ことばのイメージ力を生かす

「忍者のように静かに移動します」
「○○しているんだね。」「○○したから○○になったんだね。」言葉のイメージを大きくして理解を進めて行く。

子どもが変わる怒らない支援

「イライラする」「しない」は誰が決める？

誰の心の中にも「自分なりの枠」がある。「価値観」「思い込み」「固定観念」「想定」「期待」「思惑」心の枠の大きさはいつも同じとは限らない。
子どものことばや行動に反応して、「イライラする・しない」「怒る・怒らない」を選択しているのは大人自身。子どもが起こした出来事に意味づけているのは大人の仕事
イライラや怒りは他人が自分に与えているのではなく、原因は自分の中にある。
「怒る・怒らない」を決めているのは自分自身

怒ってもいい。上手に表に出してみよう。

怒りの感情を上手に伝えるための「事実」「影響」「感情」「尊重」
「○○ちゃんはどう思う？」相手の気持ちを聞いてあげる。
伝えることで相手の行動を変化させることが大切
“ 言って聞かせる”ではなく“ 言って効かせる”

心にふたをしない。

「親だから教師だから怒っちゃいけない」ことはない！もっとポジティブな感情を出すようにする。
怒りやイライラを抑えている人は「嬉しい」「ありがとう」「助かった」などのポジティブな感情を表に出すのが苦手

ストップシンキング　イライラしたら３つ数えよう！

対症療法と体質改善
「反射しない」１，２，３と数える間に思考回路を復活させる

「クロスポジション」自分と子どもの立場を入れ替えてみよう

もしも子どもから毎日怒られていたら？？
子どもの立場に立って気づくことはたくさんある。

よりよき相談者・理解者を作ろう

「タイムアウト」その場から距離を置いてみる

「コントロールできるイライラ」だけに目を向けよう

イライラしても遅れた電車はすぐに来ない。
自分にできることは何か？「どうしたら解決できるか」を考える。

イライラしないための親の習慣

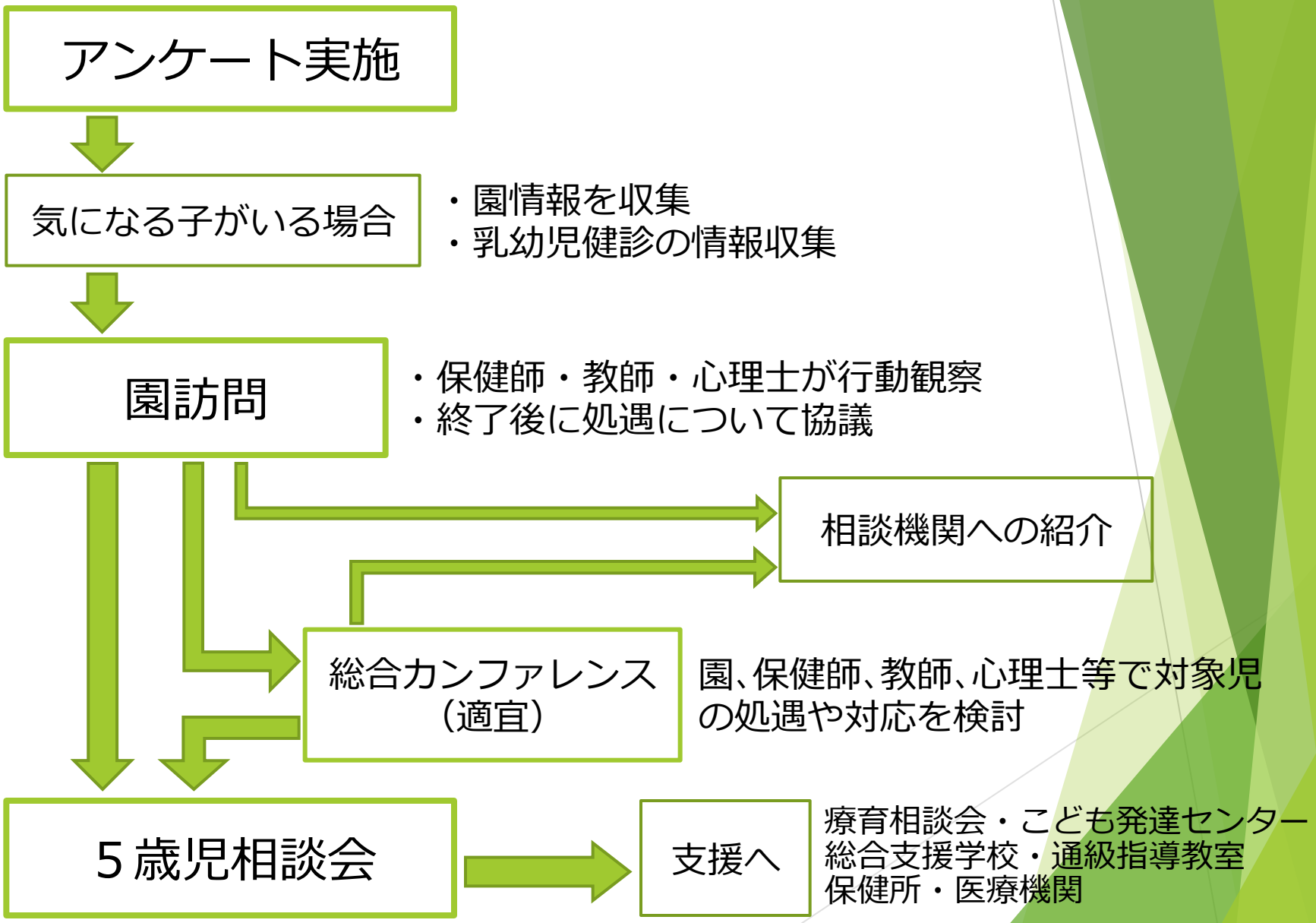
まわりの子と比較しない　「甘えさせるのは○」　「甘やかすのは×」
力の暴力、ことばの暴力、感情の暴力をやめる

５歳児発達相談研修会
平成２７年１１月１０日

多機関と連携して就学につなげたケース

下関市こども発達センター
山口真理子

下関市の５歳児発達相談の流れ



相談会　当日の流れ

- 相談前：全ケースの打合せ１５分
- 相談会：医師・臨床心理士・園相談員　同室にて実施

  医師：診察

  臨床心理士：保護者の話を聞く

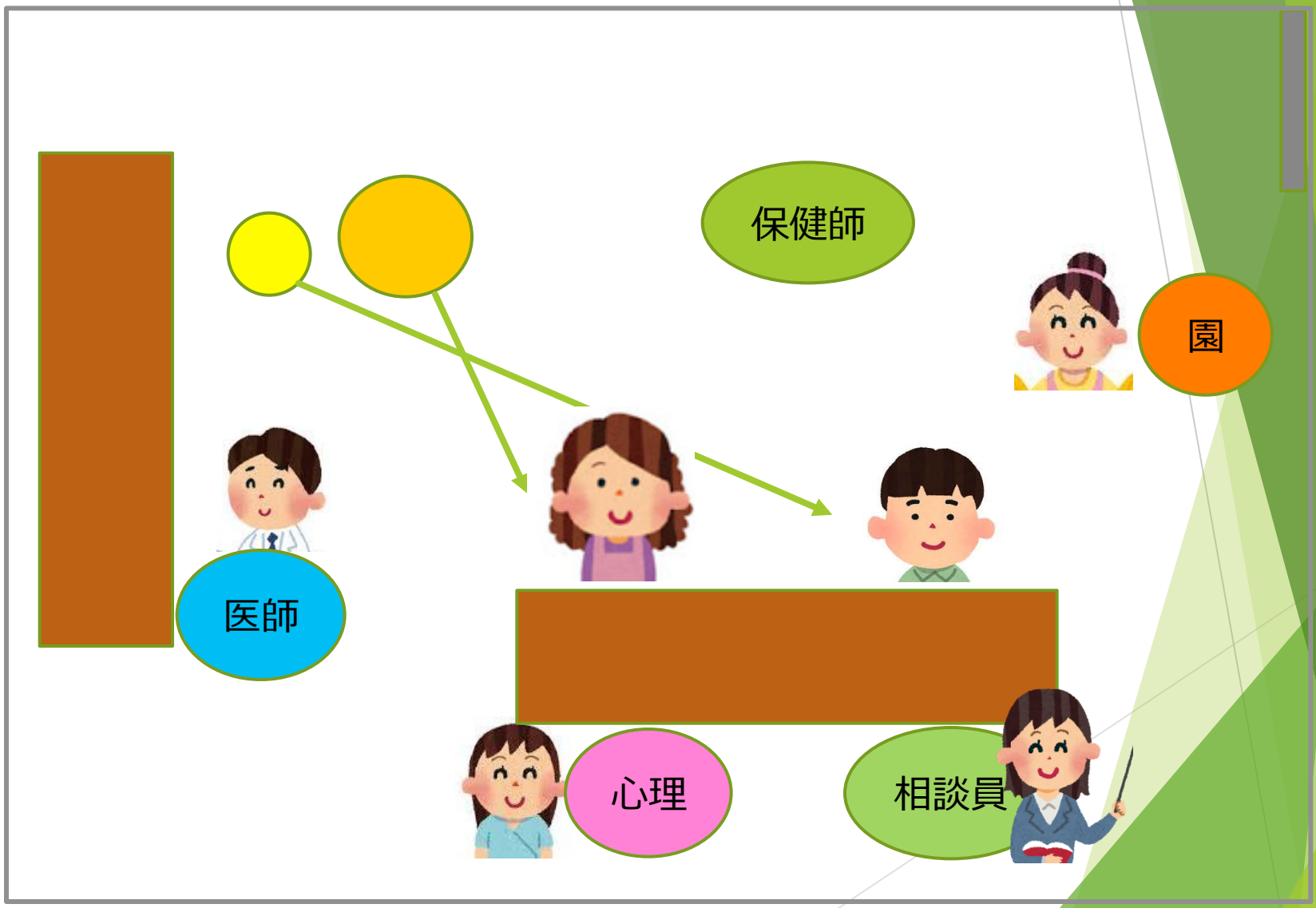
  園相談員：こどもと関わる

  相談時間３０～４０分

  直後カンファレンス１０分程（園も含め）

  別室にて保健師が保護者から感想等を伺う
- 保健師より結果を保護者に連絡

相談会場の設定



5歳児相談会まとめ

- 園情報等の情報収集
  - 方向性を示すヒント
- 相談会の役割分担
  - 得意分野や機関の長所を活かす
- 相談会は支援の窓口のひとつ
  - 相談しやすい人＝相談しやすい場所
  - 適切な場所やつなぐタイミングに応じて利用
- 園と保護者の情報共有
  - 相談会がきっかけ。相談後の必要性を伝える。
- 相談先の確認と確保
  - 支援の受け皿不足だからこそ…の作戦

５歳児発達相談における保健センターの役割
－事例を通して－

岩国市保健センター
保健師　清水　かおり

5歳児発達相談のながれ

①問診票配布

〇幼稚園協会、保育園協会の協力のもと全57園、認可外保育施設3園に周知し、園から保護者へ配布

〇保護者相談と園のみ相談

②初期相談

〇園を会場として、園が保護者と日程調整し、初期相談を開催。

〇相談は、担任、市こども支援課保育士、保健師が行う。

③支援方針会議

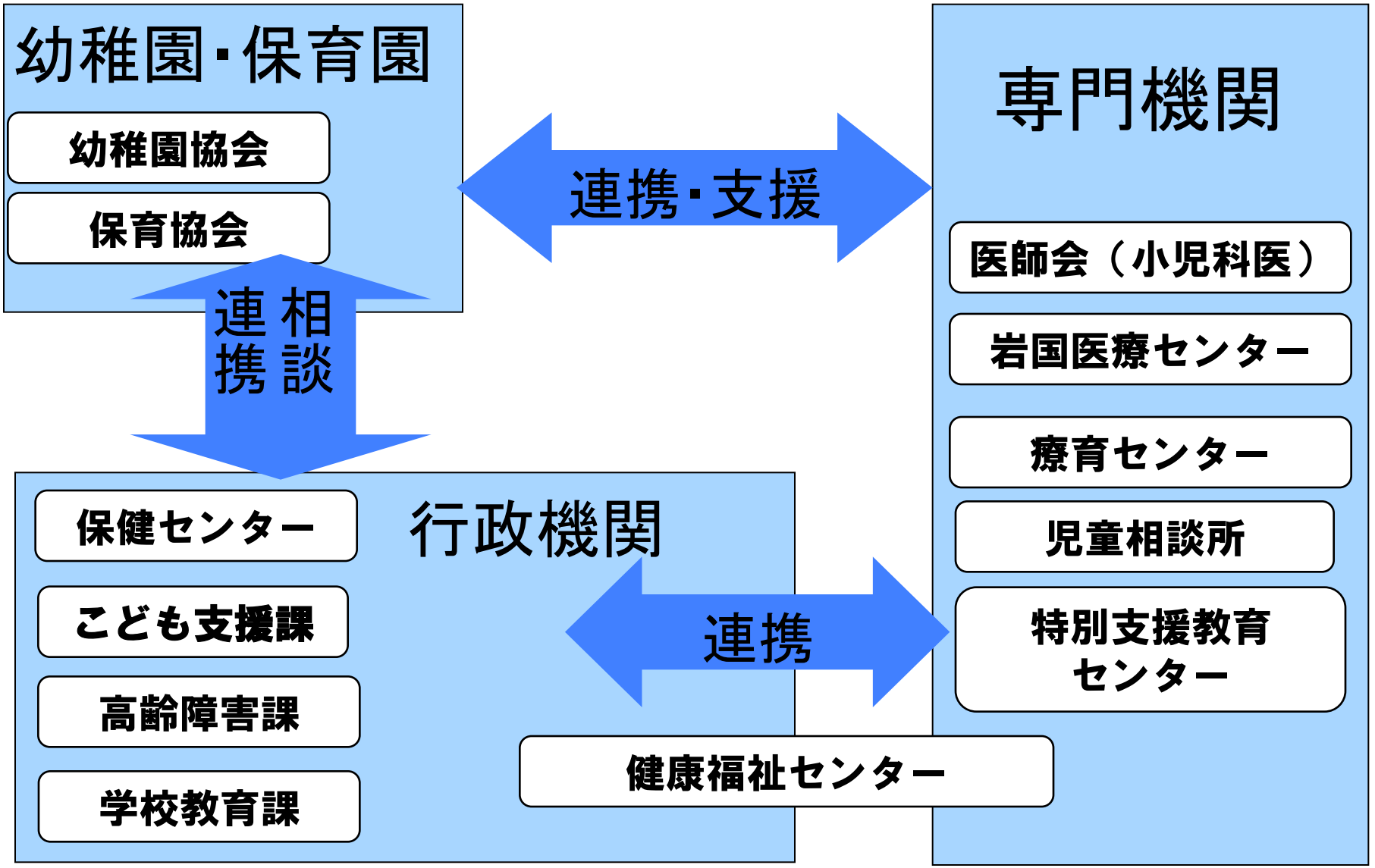
〇初期相談結果をもとに、支援の方向性等を検討。

④会議の結果報告と状況把握

〇初期相談を受けた保護者全員と園に対し、支援方針会議の結果を報告。

〇相談後の状況を把握。

発達支援全体会議


幼稚園・保育園
幼稚園協会
保育協会
連携・支援
専門機関
医師会（小児科医）
岩国医療センター
療育センター
児童相談所
特別支援教育センター
連携
相談
連携
行政機関
保健センター
こども支援課
高齢障害課
学校教育課
健康福祉センター

5歳児発達相談後の実際

①問診票配布

↓

②初期相談

↓

③支援方針会議

↓

④会議の結果報告と状況把握

支援方針検討　※問診票確認

・子どもの園での様子

・養育状況や子どもの家での様子

・保護者の思いや不安など

＜委員＞

療育センター・岩国医療センター・特別支援教育センター・児童相談所・市役所（こども支援課・学校教育課・保健センター）

５歳児発達相談の実際

①問診票配布

↓

②初期相談

↓

③支援方針会議

↓

④会議の結果報告と状況把握

支援方針決定

１．初期相談で終了

提案された児への関わり方の工夫や配慮、園と保護者から継続。

２．経過観察

児の行動の変化を観察し、専門機関の受診の必要性を判断します。

３．専門機関への受診が必要

児の発達の確認と、関わり方の専門的な助言、療育。

5歳児発達相談後の実際　（保護者相談の場合）

①問診票配布

対象；初期相談を受けた保護者全員と園

②初期相談

③支援方針会議

内容；

会議の結果報告

状況把握

（児の状況）行動特徴や変化

（保護者の状況）

初期相談時の困り感の変化や

園等との相談関係が維持できているか確認

④会議の結果報告と状況把握

方法；　保健センターが保護者と園へ連絡。

５歳児発達相談の効果

①問診票配布

○保護者に相談を促しやすく、
　気軽に相談できる

②保護者相談

○担任が家庭背景、児を理解でき、
　発達や育児のサポートできる
○保育士の助言が同時実施

③支援方針会議

○多職種の検討で内容が充実
○関係機関が役割分担

④会議の結果報告と
状況把握

○周囲のサポートによる
　保護者や児に合わせた支援

保健センター（保健師）の役割

児のための「保護者支援」

就学

・直接的アプローチ

・地域の関係機関との連携と
コーディネート

H27.11.10　5歳児発達相談
研修会

5歳児発達相談から
通級指導教室へ

防府市立佐波小学校　　津 室　博 之
＜地域コーディネーター＞

防府市立佐波小学校　通級指導教室
TEL/FAX 兼用(教室直通）0835-21-3799

通級による指導　＜通級指導教室＞

（ことばの教室）

★　**比較的軽度の障害がある児童生徒に対して、**

〇診断名がある　〇学習面の偏り　〇言語に関する課題
〇コミュニケーションの難しさ
〇LD、AD/HD、高機能自閉症等の疑いや傾向　（診断不要）

各教科の指導は主として通常の学級で行いつつ、

〇対象は“特定領域を除いてはおおむね通常の学級での学習が成立する”

個々の障害の状態に応じた特別の指導を行う。

〇障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とする指導

＊　在籍児は「個別の教育支援計画」作成の対象（保護者の同意必要）

通級による指導　＜通級指導教室＞
（ことばの教室）

★「自立活動」が指導の中心

〇個別の“困り感”の軽減、解消

〇大きな集団（学級、社会）への“橋渡し”

＊通常学級では難しい学習形態での支援
→　個別、小グループ、保護者同席

＜目標＞
個々の幼児児童生徒が自立を目指し、
障害による学習上または生活上の困難を
主体的に改善・克服するために
必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、
もって心身の調和的発達の基盤を培う

★学習補充はできない

〇教科の遅れを補充するための
補充指導は可能
→　**在籍学年の学習支援は不可**

特に必要があるときは、障害の状態に応じて各教科の内容を補充するための指導、いわゆる各教科の補充指導を含めることができます。

★通級指導の対象

〇保育園・幼稚園・未満児
→　指導が可能であれば**全て対象**

〇小学校・中学校
→ **「特別支援学級」在籍児童生徒は通級対象外**

言語発達遅滞
(発語の遅れ、構音、語彙の拡充等)
知的障害、自閉症スペクトラム、
発達障害、聴覚障害　等
＊“～傾向や疑い”も含む
子育て支援的な面もあり

①　個別と小グループ個に応じたやり方や形態

様々な学習形態で、必要な課題に取り組める
- 個別のやりとりでしっかり聞く、ほめることができる
- 意図的に設定した小グループで友だちとかかわれる

→　似た特性の友だち
同じ学校に就学する友だち
＊友だちから学びやすい環境、緩やかなかかわり
＊大きな集団への橋渡し、練習の場

②　敷居が低い

“とりあえず（教育）相談”から
気づきや困り感の薄い保護者も足を運びやすい
- 学校施設内にある
- 診断や手帳は無くても良い
- 指導時間は、在籍校登校と同じ扱い
- 料金は発生しない

③　保護者支援の場となる

保護者同士のコミュニケーションの場となる（孤立解消と安心感）

- 似たような“困り感”のある他児の様子を知る
- 似た境遇の保護者同士の思いを話せる、共感できる

→　保護者の“特別な支援”へのネガティブな捉えが和らぐ
　　様々な支援を肯定的、現実的に考えられるようになる
　　積極的な情報交換の場となる

子育て全般の支援になる（通級担当とのコミュニケーション）

- 毎回、子どもの現状をすぐに相談できる
- 在籍園（校）に相談しにくいことが話せる
- 「困っている、助けて！」と言える

→　通級終了後も突発的に相談あり、
　　兄弟児の相談　　＊小学校とも連携可能

④　就学（進学）への流れができる、各機関と連携が容易

様々な機関との連携、情報交換しながらの支援ができる
- ・通級指導担当教員、地域コーディネーター
- ・各校内、園内コーディネーターや担任
- ・市教育委員会担当

↓

就学相談、知能検査
保健センター、子育て支援課、障害福祉課との連携
専門機関の情報提供
在籍の幼稚園、保育所との連携
就学先校との継続支援

▼　一人あたりの指導時間は少ない
- →　１回につき60分弱
  （自由遊びや保護者相談も含む）
- →　月２回が限度（個別とグループ）

＜幼児通級：指導内容例＞

・構音の練習　　・個別のやりとり（共感的理解、充足感）

・プリント課題　　・ゲーム遊び　　・ソーシャルスキル

・絵カード、音、文字を使って生活上の知識や語彙の拡充
→　色、形、季節、用途、カテゴリー分け、まちがい探し、
動く言葉、カレンダー、しりとり、クイズ、じゃんけん、
パズル、音や鳴き声を聞きとりながら

・手指の使い方　→　はさみ、のり、折り紙、ゲーム

・体を動かすこと　→　なわとび、平均台、けんけん